

請願番号	請願第9号
件名	日本政府に核兵器禁止条約の署名と批准を求める意見書採択についての請願
受理年月日	令和3年9月2日
紹介議員	井深正美、森下満寿美、堀田信夫、松原徳和、服部勝弘、田中成佳、高橋和江、原 菜穂子
付託委員会	文教委員会
<p>(請願要旨)</p> <p>2021年1月22日に核兵器禁止条約が発効された。この条約により、核兵器は違法化され、国際社会の規範として核兵器の開発、実験、製造、貯蔵、使用などあらゆる活動が禁止されることになる。これは核兵器廃絶への歴史的な一歩であるとともに、核兵器のない世界をつくるチャンスである。</p> <p>今世界では、核兵器禁止条約が発効から核兵器廃絶へと進もうという声があがっている。多くの国々が被爆者の声に耳を傾け、核兵器による安全ではなく、核兵器のない世界による安全を選択し、核兵器禁止条約を支持し、参加しつつある。そして、多くの人々が核兵器の廃絶を求めている。</p> <p>しかし、唯一の戦争被爆国の日本政府は核兵器禁止条約に背を向けている。</p> <p>全国では、593自治体(令和3年7月20日現在、県では岩手、長野、三重、沖縄、鳥取の5議会)が意見書を提出し、岐阜県内では、関市、多治見市、美濃市、可児市、関ヶ原町、神戸町、池田町、坂祝町の8議会において国への意見書が採択され、これは1788自治体の33%になる。3か月余りで33自治体も増えている。国内の世論調査でも、日本が核兵器禁止条約に参加すべきとの声は7割を超えている。</p> <p>核兵器禁止条約が発効された今、日本政府こそが被爆者と国民の声に誠実に応え、核兵器のない世界の先頭に立つべきではないのかと考える。</p> <p>よって、日本政府が核兵器禁止条約に一刻も早く署名し、批准するよう、下記事項について請願する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 日本政府が速やかに核兵器禁止条約の署名と批准することを求める意見書を提出すること。</p>	
付託年月日	令和3年9月17日(金)
審査結果	令和3年9月27日(月) 不採択